



「設立の目的を共有し、いっそう魅力ある会へ」

福島県公立学校退職校長会

会 長 福 士 寛 樹

山々の新緑が目映えるよい季節になりました。皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さる4月26日、福島市吾妻学習センターで行われました令和5年度福島県公立学校退職校長会評議員会におきまして、皆様から推戴いただき会長に選任されました。素晴らしい先輩方が数多くいらっしゃる中で、私のようなものが、このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでいっぱいです。もとより浅学菲才で微力ではありますが、県内16支部の皆様方のご支援・ご指導を賜り、これまでの事務局員としての経験を活かしながら精一杯努めてまいり所存ですので、どうぞよろしく願いいたします。

4年間にわたり会長職をお務めいただき、コロナ渦の大変厳しい中、私たちを導いてくださいました佐藤俊市郎先生にこの場をお借りして心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、本会は、創立58年を迎え、会員約2,500名の組織です。その目的は、会則にありますように「会員相互の旧交と生活の向上」と「本県及び我が国の教育の振興に寄与」することです。この創設の目的を皆様方と共有し、本会が抱える課題を一つ一つ丁寧に解決していこうと思っております。

まず、会員数の減少に関する課題、これは定年延長に関わる問題とリンクさせて対応していかなければならない問題です。私たち会員にも、現役の校長先生方にも心に響き、目に映るようこれまで以上に魅力ある会づくりと充実した活動が求められています。そのためにも今まで以上にコロナ禍や急速なICT化などにより負担の大きい学校への支援に努め、要望活動のさらなる充実や本県の未来を担う子どもたちのために組織を挙げて協力していくことが大切だと考えています。

私を含め、会員一人一人がそれぞれのお立場で本会の大きな活動の柱となる本県の教育の振興のため、地域社会に貢献できる活動を地道に続けていくこと、また、現役の校長先生方との懇談を通して学校現場の課題を共有し、要望書に適切に反映させ関係機関等へお伝えし、着実に成果を上げていくことなどを通して会としての存在価値を一層高め、魅力ある会にしていくことが肝要だと考えています。さらに、DX・デジタル化を一層推進し、タイムリーに各支部間の連携・情報共有、各支部と県事務局、そして全国、東北、関係機関等との連携を一層強化し、本会の活動の幅を広げていくことも大切なことだと思っております。

今年度は、実に4年ぶりに県大会を例年どおりに郡山市で実施します。皆様と旧交を深め、各支部との交流ができますことを楽しみにしています。郡山支部の皆さんどうぞよろしく願いいたします。また、今から12年前の東日本大震災でいただいた多くのご厚情の恩返しとして、大地震で被災したトルコに対し、義援金をお送りすることといたしました。義援金は、トルコ大使館に直接お届けしたいと思います。

令和6年度は、東北地区退職校長会協議会がちょうど節目の50回を迎え、本県での開催の予定です。また、令和7年度は本会創立60周年を迎えます。これらについても本年度より計画的に準備をしてまいります。

新型コロナウイルスが感染症法上「第5類」に移行され、現在少し落ち着きをみせてはおりますが、普通の病気ではなく変異の予測がつきにくく油断のできないものであることは間違いありません。会員の皆様の安心・安全を最優先に当面お示ししたガイドラインに沿った会運営をして参ります。

結びに、会員の皆様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げますとともに、引き続き、ご支援、ご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

令和5年5月1日